

2023
1-3 月期



第二十回 美濃加茂市内企業 業況調査結果

調査項目 (自社業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰り)

二〇二三年三月に会員六十事業所について業況調査を実施し、全事業所から回答を得ました。(回答率100%)
ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。今後も年四回実施いたしますので、ご協力頂きますようよろしくお願いいたします。

〈調査概要〉

今回の調査期間は、新型コロナウイルスの感染状況に改善の兆しが見え始め、令和五年三月十三日からマスク着用のルールが緩和し社会経済活動の正常化がみられる時期に行いました。調査した三月は、世界的にエネルギー・食料等の価格高騰など事業活動が厳しい中で行われた期間の調査であり、特に、商業・建設業・運輸・自動車業については悪化しているとの回答が多かったが、工業や観光・飲食業は全国旅行支援の影響もあり先行き改善の期待感がみられる結果となりました。

1 2023年1月～3月期の動向

【業況DI】

業況	今期 2023年1月～3月	先行き 2023年4月～6月
サービス	10.0	▲ 30.0
運輸・自動車	▲ 20.0	0.0
観光・飲食	20.0	30.0
建設	▲ 40.0	▲ 20.0
工業	0.0	40.0
商業	▲ 40.0	▲ 10.0
全体	▲ 11.7	1.7

(※前回調査 ▲6.7)

(※前回調査 ▲21.7)

【仕入単価DI】

仕入単価	今期 2023年1月～3月	先行き 2023年4月～6月
サービス	▲ 20.0	▲ 40.0
運輸・自動車	▲ 80.0	▲ 80.0
観光・飲食	▲ 90.0	▲ 80.0
建設	▲ 70.0	▲ 70.0
工業	▲ 90.0	▲ 70.0
商業	▲ 70.0	▲ 60.0
全体	▲ 70.0	▲ 66.7

(※前回調査 ▲78.3)

(※前回調査 ▲70.0)

【売上DI】

売上	今期 2023年1月～3月	先行き 2023年4月～6月
サービス	20.0	▲ 20.0
運輸・自動車	▲ 30.0	▲ 10.0
観光・飲食	20.0	40.0
建設	▲ 40.0	▲ 20.0
工業	▲ 10.0	50.0
商業	▲ 50.0	▲ 30.0
全体	▲ 15.0	1.7

(※前回調査 ▲10.0)

(※前回調査 ▲18.3)

【従業員DI】

従業員	今期 2023年1月～3月	先行き 2023年4月～6月
サービス	10.0	20.0
運輸・自動車	30.0	30.0
観光・飲食	10.0	0.0
建設	50.0	50.0
工業	60.0	40.0
商業	20.0	10.0
全体	30.0	25.0

(※前回調査 16.7)

(※前回調査 11.7)

【採算DI】

採算	今期 2023年1月～3月	先行き 2023年4月～6月
サービス	10.0	▲ 50.0
運輸・自動車	▲ 50.0	▲ 40.0
観光・飲食	▲ 10.0	10.0
建設	▲ 50.0	▲ 60.0
工業	▲ 10.0	30.0
商業	▲ 60.0	▲ 30.0
全体	▲ 28.3	▲ 23.3

(※前回調査 ▲31.7)

(※前回調査 ▲28.3)

【資金繰りDI】

資金繰り	今期 2023年1月～3月	先行き 2023年4月～6月
サービス	10.0	0.0
運輸・自動車	▲ 10.0	▲ 10.0
観光・飲食	▲ 20.0	▲ 10.0
建設	▲ 30.0	▲ 20.0
工業	0.0	20.0
商業	▲ 30.0	▲ 20.0
全体	▲ 13.3	▲ 6.7

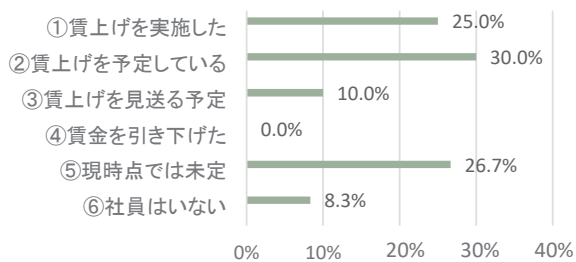
(※前回調査 ▲8.3)

(※前回調査 ▲8.3)

※ DI (景気判断指数) とは、業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰りの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。つまり、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

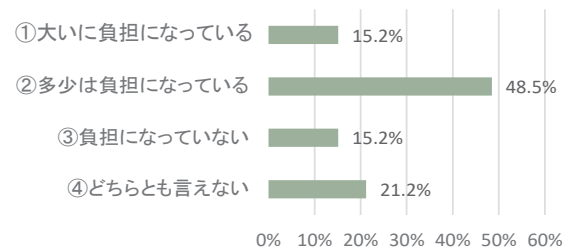
2 社員の賃上げ状況について

社員の賃上げについて伺ったところ、「①賃上げを実施した」が25%、「②賃上げを予定している」が30%でした。



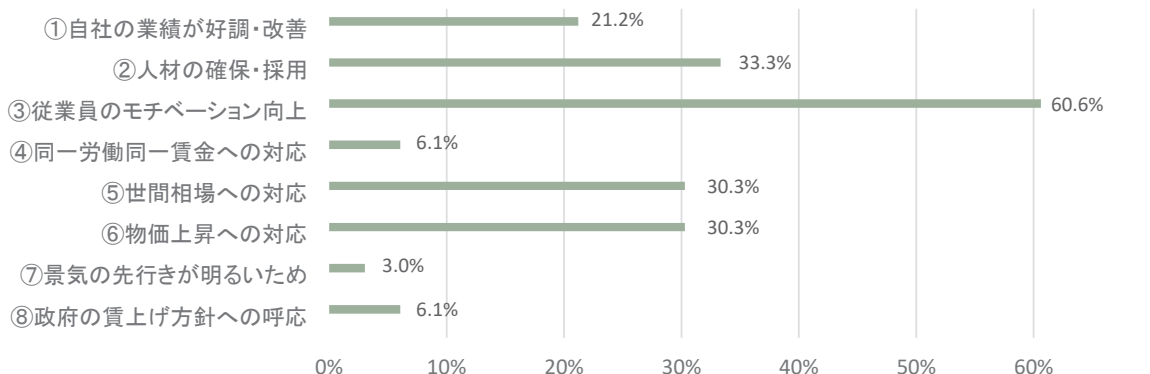
3 賃上げによる経営への影響について

2で、①②と回答された方に、経営への影響について伺ったところ、下記の結果となりました。



4 賃上げする理由について(複数回答可)(複数回答可)

2で、「①賃上げを実施した」「②賃上げを予定している」と回答された方に、賃上げする理由について伺ったところ「従業員のモチベーション向上」が60.6%と最も高い結果となりました。



調査結果

表1の業況・売上をみると、建設業・商業・運輸・自動車業の落ち込みがみられ、前回の調査結果と比べ5ポイント悪化している結果となった。サービス業からは「仕入納期が半年かかるものがある」「定価は変わらないのに仕入値が上がっている」、自動車業からは「半年で経費が30%増加しているがBtoBの取引のためすぐに価格転嫁できない」、製造業からは「原料・資材の値上げが続いているが、価格転嫁できず採算が悪化している」、商業からは「先行きは不明であるが、物価上昇が続いているため価格転嫁できるようお客様に説明している」との声がありました。

仕入価格は、全ての業種で価格が上昇傾向であると回答している。従業員については、特に工業・建設業で従業員不足と回答している企業が多くみられました。運輸業からは「従業員不足と高齢化が最大の悩みである」といった意見もありました。採算は、サービス業を除く業種で落ち込みがみられ、前期(4~6月)の調査結果と比べると3.4ポイント改善している。

今回は、社員の賃上げ状況について調査を行ないました。2によると、「①賃上げを実施した」並びに「②賃上げを予定している」と回答した企業は55%でした。3によると、賃上げによる経営への影響は「②多少は負担になっている」と回答した企業が48.5%と最も多い結果となり、4では、賃上げする理由について伺ったところ、「③従業員のモチベーション向上」が60.6%と最も多い結果となりました。景況感や経営において工夫している点について伺ったところ、仕入単価が上昇しているが価格転嫁が難しいといった意見が多い結果となりました。運輸業からは「燃料費の高騰やタイヤなどの消耗品の高騰もあり、荷主に対し運賃の見直しを依頼している。経費削減を社内で行っているが、今後の見通しが立たない」、飲食業からは「単価を少し上げたが、経費を抑える事に腐心している」、建設業からは「請負単価の引き上げがされずらく、物価高により工具の値上がりもあり、ネット販売を利用して安く購入している」、商業からは「仕入価格の交渉や主力事業の変更を行っていく」、製造業からは「コロナ緩和に期待している」や、「無理なビジネスをせずお客様に対して魅力ある提案を行い、長期にわたり信頼性を失わない努力を継続する」といった声も聞かれました。